

教育目標	水産・海洋に関する基礎的な知識・技術を習得させるとともに、持続可能な視点を持って水産や海洋の将来の活用を捉え、関連する産業の発展と地域社会に貢献できる、心豊かなたくましい人間を育成する。
------	---

重点目標	(1)主体的な学習態度の育成と、基礎学力を向上 (2)挨拶、時間、身だしなみ(あじみ運動)等マナーの向上 (3)進路目標を高く持ち、主体的に進路選択できる力の育成 (4)海を活かす・守る・興す人材育成に向けた学習活動の研究 (5)地域と連携し学科の特色を活かした水産・海洋教育の充実
------	---

達成度	A	達成
	B	概ね達成
	C	やや不十分
	D	不十分

自己評価					学校関係者評価	総括	
番号	重点目標	具体的方策と指標・基準等	目標の達成状況、達成に向けた取組み状況と分析	達成度	成果と課題 次年度に向けた改善策		意見・要望・評価等
1)	主体的な学習態度の育成と、基礎学力を向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>全教科・全科目の観点別評価基準の作成</li> <li>新学習指導要領の実施に合わせ、三観点評価を盛り込んだシラバスに対応した、各単元の観点別評価の実施</li> <li>1学科教育課程の周知、実施教科・科目の研修</li> <li>探究的な学習について研修し、課題研究発表会でのポスター発表のレベルをより高いものにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>三観点評価を盛り込んだシラバスの作成</li> <li>5月中下旬の中高連絡会、8月上旬の体験入学、令和6年度入選の公表11月上旬に向けた対外広報を充実する</li> <li>10月の学校説明会、12月の進路相談会での周知</li> <li>課題研究の取組み・実施状況は良好、課題研究発表会は高いレベルで実施できた。</li> <li>1学年については地域学習について充実している。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>1・2年で前期末に評価の観点を示すことができた。</li> <li>年次進行のため、来年度新3年生に観点を示す必要がある。</li> <li>三観点での評価実施には十分対応できている。</li> <li>個々の授業同士のつながりを改善工夫</li> <li>学科ごとの年間計画の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題研究発表会は、多方面での研究テーマがあり良かったので単年度で終了するのではなく、2年生、1年生も含めて継続してほしい。</li> <li>生徒のアンケートによると、先生に質問しやすいとの結果が出ている。継続し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒に評価の観点を分かりやすく示し、質問しやすい環境を整え、発表の機会を与えることが重要である。</li> </ul>
2)	挨拶、時間、身だしなみ等マナーの向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な服装・頭髪検査</li> <li>強化週間等の設定</li> <li>毎日の清掃活動の徹底</li> <li>ユニバーサルデザインの視点の入った整理整頓</li> <li>教職員が共通理解を持って全員で指導にあたる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校における基本的な生活習慣については比較的よくできている。</li> <li>全体として、服装・頭髪など良い方向に変わってきている。</li> <li>服装は暑さ寒さ対策をするようになってから、規定から外れることが多くなった</li> <li>前期に比べ、遅刻者が増加傾向</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>冬場の服装での不備を改善する必要がある。</li> <li>自発的な挨拶ができるよう、働きかけていく。</li> <li>後期の遅刻者の増加を防ぐ必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏・冬の衣替えがスムーズにできるよう、指導願いたい。</li> <li>後期の遅刻者増加に留意願いたい。</li> <li>生徒のアンケートで、教員が生徒に対し公平に接してくれるとの評価が高く評価したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>季節の変化(猛暑、春夏秋冬)に合わせた生徒指導が必要であり、それらを公平に行うことが重要である。</li> </ul>
3)	進路目標を高く持ち、主体的に進路選択できる力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路のしおり(キャリアパスポート)を活用し、キャリア教育に取り組む。</li> <li>水産・海洋関連企業からの求人依頼を参考に、各類型と連携し、進路開拓を行う。</li> <li>進路希望調査をふまえて、地元および県外の企業との適合性を考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門性を生かした進学や就職が約60%であった。</li> <li>就職では、約8割の生徒が1回目の受験で内定を受けた。残りの生徒も2回目の受験で内定を獲得した。資格取得が採用に結びついた事例があった。</li> <li>進学では3名が大学に進学し、進学者の8割が専門を生かした進学先に進んだ。</li> <li>進路ガイダンスやワクワワークなどの進路行事に専門と関連した企業・学校に参加を促し、生徒に刺激を与えることを心掛けている。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業訪問や他の効果的な進路開拓方法を確立する必要がある。</li> <li>学校の活動全体で生徒のスキルアップを図り、生徒たちが進んで高度な資格取得にも挑戦する体制を構築する必要がある。</li> <li>人手不足で売り手市場の時こそ丁寧な進路対応・進路指導を実施し、学校としての信頼を高める必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進学についても色々な情報を子どもや家庭にどんどん伝えてほしい。</li> <li>就職、進学者が早い段階で内定しているのだから、進路指導を手厚くしてほしい。</li> <li>海運業(商船、漁船等)に従事している卒業生から、情報を得て欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路情報の提供(特に専門的な仕事や進学先)と進路に関わる体験等を通じ、ミスマッチのない進路指導が重要。</li> </ul>
4)	海を活かす・守る・興す人材育成に向けた学習活動の研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>海洋シラバス・教科内実習・課題研究を活用し、生徒が主体的に取り組める場を設定し探究型学習につなげる。</li> <li>他校や鶴岡市との連携を深め、地域に貢献できる人材を育成する。</li> <li>あらゆる状況下でも効果的な乗船実習ができるよう安全航海、感染予防と実習の両立を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他校や鶴岡市、企業と連携しながら、新たな販売品の企画や試食会など効果的に実践することができた。</li> <li>課題研究では産業教育連携協議会とのタイアップで、水産・海洋に関わる多くの取り組みを実践し、部活動、同好会活動も含めてポスター発表やパワーポイントでの発表など多様な形式で発表会が実施できた。</li> <li>乗船実習では、水産・海洋に興味を持つような体験航海、それぞれの類型に対応した実習の内容の深化に努めた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウイズコロナに向けて、連携事業を効果的に利用し、魅力的な活動を追求する必要がある。</li> <li>海洋シラバス、課題研究を他の連携先と協力しながら、より発展的に展開する必要がある。</li> <li>制約されていた航海内容をより効果的に実践できるよう、時機に合った航海の立案が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の特性を活かした活動に満足している。</li> <li>多くの団体、企業、行政等と連携して活動しており、課題研究発表会等で大勢に伝えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な連携を通じて、特色ある活動が充実していくので、今後も有意な人材育成に務めていく必要がある。</li> </ul>
5)	地域と連携し、学科の特色を活かした水産・海洋教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域に根ざした海洋教育を実践するため、総合的な探究の時間、課題研究を通じて地域学習や課題解決型の研究に取り組む。</li> <li>地域や関連産業界との連携を図り、求める人材を知り、育成する</li> <li>各学科系列で学んだ学習内容を深める資格を取得させ、課題研究などで応用力を身につけさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>加茂コミセン、地域の歴史研究者と連携し、加茂地区の歴史的特徴を掴み効果的な地域学習ができた。</li> <li>総合探究・教科内実習・課題研究を活用し、生徒が主体的に取り組める場を多く設定した。</li> <li>類型による専門性を生かしながら、他校と連携して試食会や実習製品の販売などを継続できた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>新たな教育課程が学年進行で展開されるようになるため、1年で実施した「総合的な探究の時間」での効果を2年でより深化するよう取り組む必要がある。</li> <li>海技士の筆記試験に係る指導体制が進展し、今後も受験者の増加と合格率の向上に向け取り組む必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水産研究所、水族館、カモンマーレの連携をさらに深めていただきたい。</li> <li>加茂地区の資源回収、油戸地区の魚の森事業、加茂地区高齢者宅への弁当配布など効果的な事業は評価できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校と地域が共に協働し、活動していくことが両者の発展につながる。</li> </ul>

自己評価及び学校関係者評価の改善点、他	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者の学校評価アンケートの自由記載欄には学校に対する感謝の記載のみであったが、もう少し広い意見が記載できるよう工夫が必要。</li> <li>欠席した学校関係者評価委員の意見聴取方法は工夫して集まるようになったが、実際の出席人数を増やす必要がある。</li> </ul>
---------------------	---